

北海道算数数学教育会小学校部会会報

第 91 号

さんすう

H20・9・22
北海道算数数学教育会
小学校部会発行

新学習指導要領を見据える

北海道算数数学教育会
小学校部会部会長

札幌市立上野幌東小学校長 勝山 登

新学習指導要領

平成18年12月15日、新しい教育基本法が国会において成立し、12月22日に公布・施行された。

そして、今年の3月28日に文部科学省は、新しい幼稚園教育要領、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領等を公示した。小学校は平成23年度からの全面实施となる。

この新学習指導要領は、算数・数学にとって大きな改訂といえるだろう。学力の低下があやぶまれ、国際的にも通用する学力を身に付けさせたいという願いがしっかりと込められている。算数科の「目標」を見てみると、①「算数的活動を通して・・・」と文頭に算数的活動があり、②「筋道を立てて考え、表現する能力」というように表現力が新しく設定された。また、③「生活や学習に活用しようとする態度」のように、現行の「生かそうとする」が「活用しようとする」に変わった。中学校でもほぼ同様の考えが見られることから小中学校の9年間を通して、この3つのことが目標の全体にかかる事項であることが強調されている。

次に「領域」についてだが、1・2年で「D数量関係」が新設された。さらに、内容の中に4つの領域の他に〔算数的活動〕が指導内容として新設された。領域と活動をリンクさせ、それらの組み合わせの上に学習活動が位置付くような構造になっており、算数的活動を通して、領域に掲げられた事項を習得していくことが期待されている。

では、算数的活動の重視とは学習指導・学習活動においてどのようなことに留意すればよいのだろうか。

それは、①「進んで課題を見つけ、見通しをもち、解決しようとする」「算数を学ぶ楽しさを知り、ねばり強く課題に取り組もうとする」等の態度の重視 ②「自分の考えを友だちにわかりやすく伝える」「友だちの考えを知り、学び合うことよさや楽しさに気づく」等の学習展開 ③「自分の考えを小集団や全体の場での練り上

げに生かす」「みんなでよりよい考え方や解決の方法を明らかにしようとする」「数量や図形を身の回りの事象や社会的な事象に活用する」等の態度の育成。さらには、「数理的な処理のよさや算数のよさに気づく」「数量や図形について、美しさや不思議さについての感覚をもつ」「数や式、図形の一般性や規則性に感動する」ことができるような授業を構築していくことが重要であると記しており、今後の算数の学習指導・学習活動に対しての方向が示された。

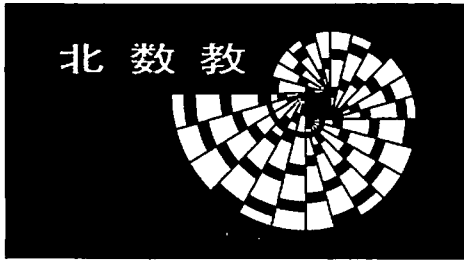
さらに、4月24日に小・中学校学習指導要領の改訂に伴う平成21年度からの移行措置案も公表され、その中で①算数・数学及び理科については、新課程に円滑に移行できるよう、移行措置期間中から新課程の内容の一部を前倒しして実施。（授業時数の増加も前倒し実施）②これに伴い、小学校では、算数の過当たりの授業時数を各学年で0.6～0.7コマ増加する。

北数教の研究

このような国の動きがあるとはいえ、私たち北数教の考え方や今後の進むべき方向が変わることはなく、ますます意を強くしているところである。小学校部会の研究主題「豊かな心を育てる算数教育」は、平成3年度の第46回小樽望洋台大会から18年目を数え、現在のサブテーマ「自ら考える力を育む問題解決学習の創造」は今年が3年目となる。子どもが主体的に算数的活動にかかわり、問題解決の学習を進めながら、「自ら考える力」の育成をめざす指導のあり方を探ってきている。

算数的活動を通して基礎・基本の確実な定着を図り、その上でさらに基礎・基本を活用した算数的活動を通して自ら考える力を育成する。

北数教は、北海道の子供たちのためにこれからも大いに研鑽を積み、教師力をパワーアップしながらより質の高い授業の構築を目指していきたい。そして、一人でも多くの先生方に広めていくことが重要である。



小学校部会 研究部

【研究主題】
豊かな心を育てる算数教育

【研究副主題】
～自ら考える力を育む問題解決学習の創造～

I. 研究主題に込めたもの

平成18年度から3年次研究がスタートし、研究主題を「豊かな心を育てる算数教育」として研究を進めてきました。3年次研究最後の年として研究主題を継続して、数理を追求する活動を通して、次のような「豊かな心」を培おうと考えています。

- ① 活動の楽しさや数理や図形のしくみの規則性や論理性、明確さなどを美しいと素直に感じる心
- ② 見通しをもち、筋道立てて考え、処理していく過程で、「簡潔、明瞭」、「統合、発展」を求め続ける心
- ③ 子ども自身が自らの力で学んだことを生かし、仲間と積極的に交流しながら、認め合ったり、高めあったりする心

そして、算数教育を通して、どんな豊かさ（生きる力）を培うのかをさらに大きな視野で見つめ、次のようにおさえました。

- 算数を学ぶ楽しさやよさを感じる
⇒考える習慣を身につけること
- 新しいことを発見したり創ったりする
⇒未知な対象への追究の仕方を身につけること
- 自ら考え、仲間と共に解決していく
⇒明確な根拠をもちながら、情報を伝達し合うこと

II. 副主題設定の理由

1. 研究副主題設定にあたって

前年度までの研究の成果と問題解決の現状や問題点を整理しながら、今後の研究の指針を得るために学習指導要領の目標の分析を行いました。その結果、これからの算数教育において、次のことが重要であると認識できます。

子どもが主体的に算数的な活動にかかわり、問題解決の学習を進めながら、「自ら考える力」の育成をめざす指導のあり方

一方で、「学力低下をどうするか」という今日的課題も浮かび上がってきました。研究部では、基礎・基本の習得を大切に、問題解決学習の充実を実現することで「学力低下」の問題を解決できると考えます。

そこで、「共に学ぶ」姿をこれまで通り欠くことのできないものとしておさえ、昨年度から今日的課題に関わる研究の深化を図るため一昨年度までの副主題「共に学び、自ら考える力を育む問題解決学習の創造」から「共に学ぶ」を除き、より「個」の問題解決学習の充実、「自ら考える力」に焦点を当てて研究を進めることにしました。

2. 研究副主題に込めたもの

- ① 自ら考える力
 - ・「自ら考える力」を「活動する力」ととらえる。この「活動」とは、自らの問いを解決するために、未知な対象にはたらきかけていく過程とおさえる。
- ② 問題解決学習
 - ・子どもが主体的に算数的な活動にかかわり、問題解決の学習を進めながら、「自ら考える力」の育成をめざす指導のあり方が重要な課題である。
- ③ 基礎・基本の習得
 - ・「基礎・基本」を「活動する力を支えるもの」としてとらえる。
 - ・内容としての基礎・基本と問題解決の方法としての基礎・基本を習得する。

III. 研究を深めるにあたって

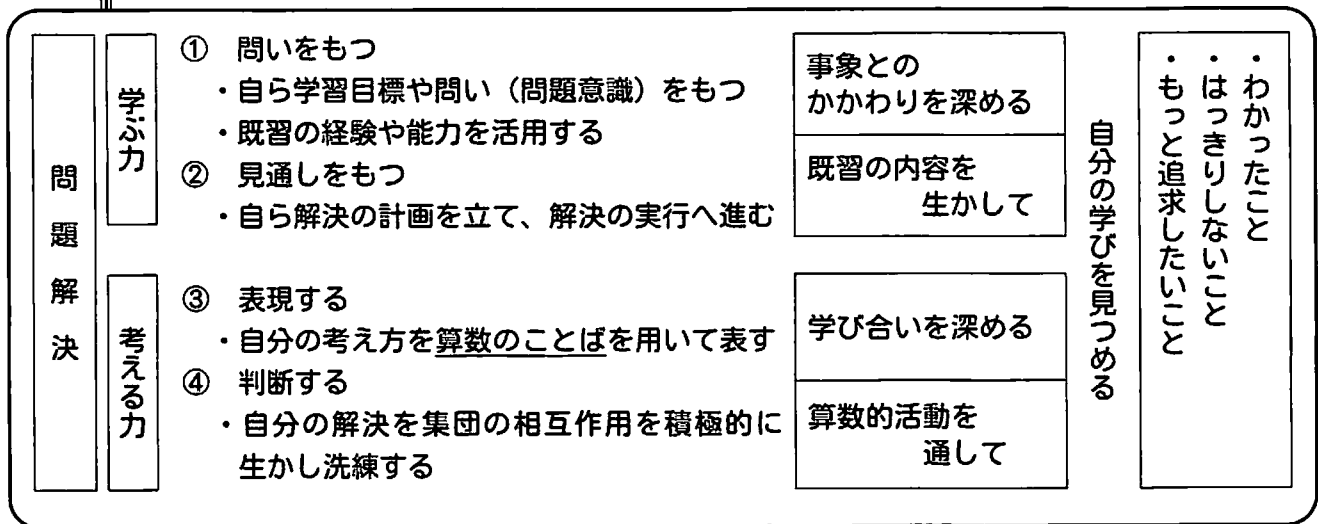
今年度は、この研究主題・副主題で研究を進めていきます。これを受けて、各地区・支部が研究を進め、各地区・支部の実践・検証を本部研究部が集約し、北海道の算数教育の実状と成果・課題を明確にしていきたいと考えています。

問題解決学習の充実をめざした授業づくり

◆授業づくりにあたって◆

- ① 習得を図るための「繰り返し」の位置づけ
- ② 「問題解決の方法」を強く意識した目標の達成
- ③ 集団（他）の交流、検討を強く意識した展開
- ④ 個人差に応じた構成

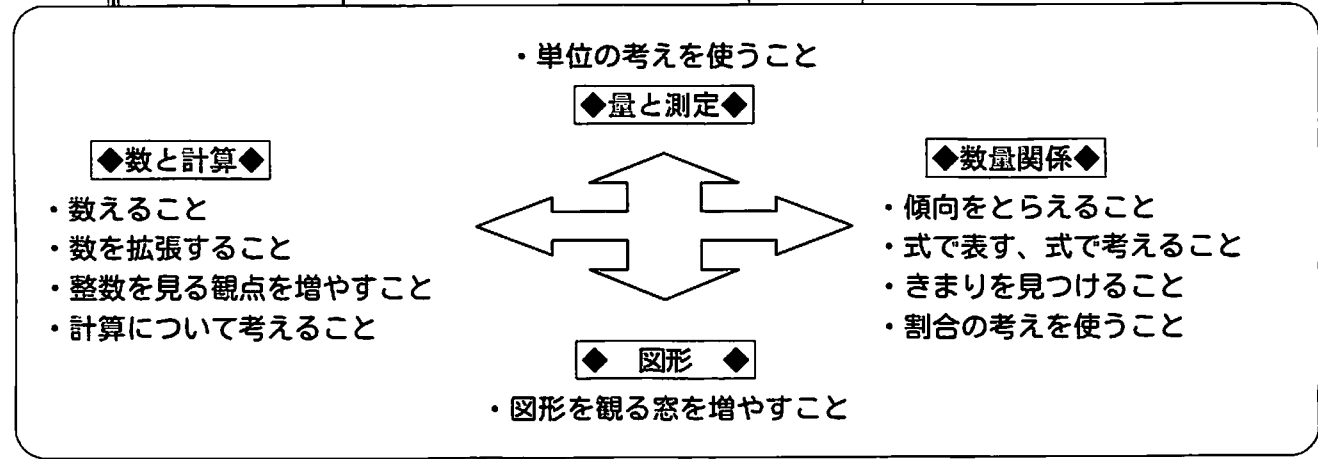
本部研究部が考える「問題解決学習の充実をめざした授業づくり」の概要です。今年度、札幌支部の研究内容をもとに白楊小大会での具現化を進めます。



◆基礎・基本の習得をめざす問題解決◆
 ○基礎・基本の習得を強くねらった目標の設定
 ○基礎・基本の習得が確かにできる授業構成
 ～基礎・基本の
 明確の設定・「繰り返し」による習得～

他者とのかかわりの場を
設定した学び合いの重視

◆自力解決の拡大を
めざす問題解決◆
 ○基礎・基本の活用を
 強くねらった発展的な学習
 ～個々の課題選択・発展課題
 への取り組み～



私と算数教育

共に学び合うよさを感じる算数の授業

～「2年 たしざん」の実践から～

札幌支部

札幌市立新琴似北小学校

斎藤 弘樹

1. はじめに

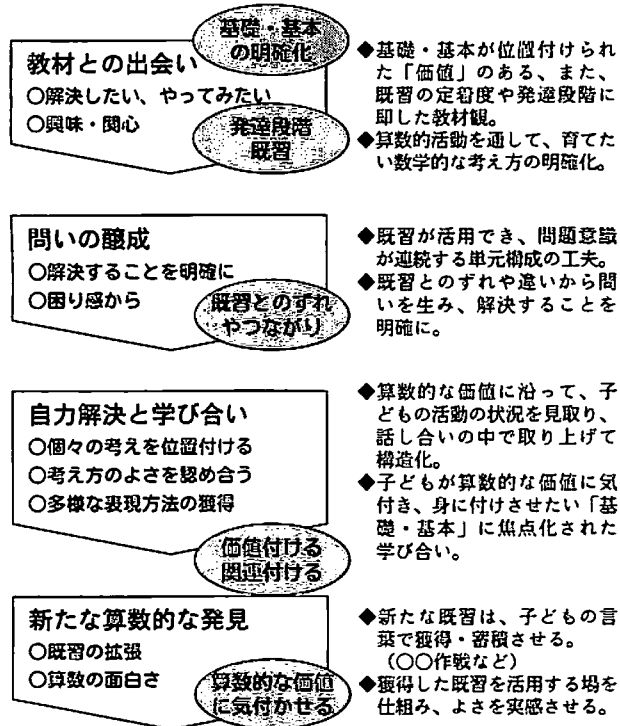
算数科の新学習指導要領の主旨として、基礎的・基本的な知識・技能の定着とともに、算数的活動を通じた思考力と表現力の育成が重視されている。

日常の授業でも、限られた単位時間の中での追究活動では、子どもが自ら迫っていく算数的な価値として、その学習時間のねらいを明確にする必要性を感じている。また、算数的な価値に迫っていく学び合いを構築するには、互いの考え方の響き合いも不可欠である。子どもが、式や言葉、図などの多様な表現に包括される算数的な価値を見付け、新たな算数的な発見の喜びや達成感を感じることを大切にしたい。

そのような、「共に学び合うよさを感じる算数の授業」について、実践をもとに考えていきたい。

2. 自ら考え、仲間と共に解決していく授業

(1) 算数的な価値を主軸とした豊かな学びの構築を



(2) 表現力を育成し、かかわり合う学びの積み重ねを上記のように、算数的活動から表出する子どもの気付きや考えを算数的な価値として位置付け、どう学び合いを構造化していくかを大切に授業をすすめるようにしている。

そして、学び合いを支えるものとして、自分の考えを図や式、言葉、あるいは操作などで説明する表現力を根気強く育てる必要がある。また、その大前提となり得る、

互いの考え方を受容し、よさを認め賞賛し合う学級風土づくりは、もちろん欠かせない。つまり、学び合いの土台となる「学び方の基礎・基本」となる力を育て、日々の互いにかかわり合うことに価値を感じさせる学びの蓄積が豊かな算数的な学び合いを生み出すと考えている。

3. 授業の実践から～「2年 たし算」の実践から

これまでに、1年生で、1位数+1位数の繰り上がりのあるたし算と100までの数の学習で、「10のまとまり」のよさを既習として実感している。本単元では、2位数+1位数の繰り上がりのあるたし算を学習する。

(1) 既習との違いを意識させながら、問いを醸成する～「28+□の答えは？」

□の中に一桁の数字しか入らないことを約束した後、「28+□の答えは？」という問題を提示すると、早速、子どもたちは□の中に数字を当てはめ始めた。「もしも、□が1だったら・・・」というような仮説的な話し方を大いに褒めた。次々と、「もしも、・・・だったら」と計算方法を図やブロックで説明し始めた。□が0と1の時は、既習を活用し解決できた。

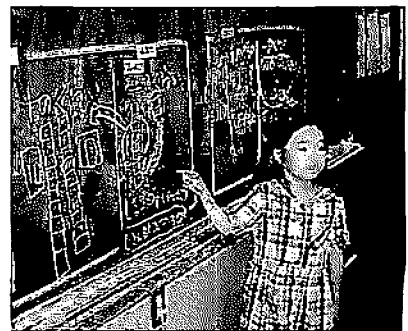
しかし、「□に2が入ると、あれ、一の位が10になるぞ！今までと違うよ」、さらには、「□に2より大きい数が入ると、一の位が10より大きくなるよ」という既習との違いを意識した気付きが表出してきた。そして、「一の位が10より大きくなる時はどうやって計算するの？」という全体の問いを醸成した。

(2) 「10は、10のまとまりの部屋に引越した！」～繰り上がりの意味に焦点化した学び合い

「28+2」のたし算の問題場面。子どもたちは、「一の位の10は？」という問いの解決に向けて、ブロックの図をかいいたり、ブロックを操作したりして問題解決に没頭した。その後、話し合いが始まった。

一の位の10をチョークで囲み、十の位に矢印で移動させる説明をした子どもに対して、「なぜ、囲んだのかな」「この矢印の意味は？」というように、教師が架け橋となることで、「繰り上がる意味」という新たな算数的な発見をさせることができた。また、「1円玉10枚で10円玉

に变身して」「10のまとまりの部屋に引っ越すから」という子どもらしい表現の中に表出する「算数の言葉」に着目させ、繰り上がるの意味に焦点化した学び合いを構築できた。



支部紹介

平成20年度の北海道算数数学教育会小学校部会は、5ブロック15地区体制で研究を進めます。

各地区の組織体制づくりを進めている地区委員の方々をご紹介します。

	地区	氏名	職	学校名
1 ブロック	石狩	小島 雅人	教頭	恵庭市立柏小学校
	後志	横山 悟	校長	岩内町立岩内東小学校
	小樽	清橋 義人	校長	小樽市立稲穂小学校
2 ブロック	上川	長田 一芳	校長	美瑛町立旭小学校
	旭川	沓澤 昭一	校長	旭川市立神楽小学校
	宗谷	赤川 雅則	校長	利尻富士町立本泊小学校
	留萌	前田 雄	教頭	留萌市立港北小学校
3 ブロック	函館	古俣 敏	校長	函館市立中島小学校
	胆振	和野 忠康	校長	伊達市稀府小学校
	空知	岩松 秀昭	校長	美唄市立東小学校
4 ブロック	釧路	関川 明男	校長	釧路市立鶴野小学校
	根室	原中 隆志	教頭	中標津町立丸山小学校
	十勝	原見 寿史	教頭	芽室町立芽室西小学校
	網走	鈴木 寿弘	校長	斜里町立朱円小学校
5 ブロック	札幌	浜出 真樹	校長	札幌市立発寒西小学校

<敬称略>

※渡島・檜山・苫小牧・室蘭・日高は、3ブロックに所属します。

※帯広は、4ブロックに所属します。

実践力を高める活動を目指して!

小樽支部

1. はじめに

小樽支部は、小・中・高の3校種の先生方で構成されています。「未来を開く算数・数学教育の創造」を共通のテーマとし、校種毎に研究主題を掲げ、その具現化を目指して、実践を大切にした研究を推進しています。

公開授業や実践講座には、会員が校種を越え参加し、算数数学の系統性を踏まえ研究交流を行っています。

2 小学校部会の取り組み

小学校部会では、会員減少が大きな課題となっています。本部会が、実践力を高める学び合いの場としての魅力をより高めていくことが重要と考え、実践につながる授業研究を多く実施し、部会の活性化を図っています。

活動は、学習会と公開授業を中心にを行っています。学習会は、定期的で開催し、よりよい算数指導について実践や情報を交流したり、研究授業へ向けた指導案の検討を行っています。授業づくりにあたっては、本部の研究資料などをもとに、研究主題や副主題等に込められているねらいや背景について共通理解を深めながら「問題解決学習の充実」を目指して取り組んでいます。そして、公開授業では、研究の取り組みについて検証し、よりよい算数授業へ向け研修を深めていきます。

会員の連携を深め、積極的に取り組みの工夫を図っていくことで、実践力向上が実感できる部会運営を進めていけたらと考えています。

3. 小学校部会20年度活動計画

(1) 研究主題及び副主題

『豊かな心を育てる算数教育』

～自ら考える力を育む問題解決学習の創造～

(2) 活動内容

□学習会

- ・研究内容の共通理解
- ・算数教育の今日的課題や最新の指導等の交流
- ・指導案検討
- ・算数授業の実践交流、全道大会等の選流

□公開授業

- ・研究授業（今年度は4回実施する予定）
- ・研究協議

□広報活動

- ・支部広報誌「交流」の発行

(3) 活動予定

6月 定期総会

7月 学習会(2回開催)

9月 学習会、公開授業①

10月 学習会、公開授業②、全道大会参加

11～12月 学習会、公開授業③

* 3学期 学習会、公開授業④、「交流」発行

(文責 小樽市立桜小学校 遠藤 隆典)

留萌スタイル

留 萌 支 部

1. 支部の概要

今年度の当支部は14名（管理職10名、教諭4名）の会員構成となっています。留萌管内には「留萌地方算数数学教育研究会」（※以下、「留数研」と略）という研究団体（今年度会員数66名）があり、今年度の留萌支部の会員は全員「留数研」に所属しています。

研究団体としては、北数教留萌支部と留数研は異なる組織ではありますが、算数数学の研究推進という目的が同じであること、これまでの支部会員のほとんどが留数研に所属していたこと、留数研事務局が支部の連絡調整担当の役割を担ってきたことから、大きな支障もなく共に活動を進め、その成果を共有してきています。

以下にご紹介する内容は厳密には「留数研」についてのもではありますが、上述したような実情からご理解いただけたらと思います。

2. 研究内容及び活動内容

留萌地方算数数学教育研究会では、研究主題を「自ら考え、共に学び合う児童生徒の育成～基礎・基本の定着と問題解決力の向上を図る授業の改善」とし、

- ① 基礎・基本を明確にした教材化の工夫
- ② 問題解決的な学習展開の工夫

の2つの視点から実践的研究を進めています。

当管内は南北に細長く広がっているため、

- ① 北・中・南の3ブロックに分け、それぞれのブロックで授業公開・研究協議を行うことを主な内容とする「実践交流会」の開催。
- ② 北・中・南の輪番で、授業公開及び研究協議、主題に関わる研究発表及び研究協議を主な内容とする研究大会の隔年開催。
- ③ 留萌市、羽幌町の輪番で教育講演会、管内を3ブロックに分けて輪番で主題に関わる研究発表及び研究協議を主な内容とする研究大会の隔年開催。

という方法を通じて実践的研究を進め、年度末にはその年度の研究内容を収めた研究集録を発行し、全会員に配布しています。

3. 今年度の取り組み

昨年度は4年次研究の最初の年として、理論研究を深めました。その取組の一つとして「これからの算数数学の授業を考える」と題して、相馬一彦北海道教育大学旭川校数学教育教授による講演会を羽幌町で開催し、盛会の内に今後の算数数学の研究の道筋を見出すなど大きな成果をあげることができました。

今年度は、昨年度の成果を踏まえ、視点②の検証授業として、「授業公開及び研究協議、主題に関わる研究発表及び研究協議」を主な内容とする研究大会を開催する年度です。11月21日に幌延町の小・中学校2校を授業会場として開催する予定です。

（文責 羽幌町立羽幌小学校 新井 真）

北数教第64回大会に向けて

空 知 支 部

1. 支部の概要

空知支部においては、研究大会開催に向け人の輪が広がりがつあります。特に今年度は、空数教という団体にはこだわらず、平成21年度の研究大会成功のために活動の主体を実行委員会に移して事業を継続しています。

2. 活動紹介

昨年度行った「夏季研修会」と同様に今年度も研究大会に向けて8月11日に岩見沢市教育研究所で実施しました。特に今回は北数教会長の久保和義先生を岩見沢市にお迎えし、これからの算数・数学教育の流れを中心にお話していただきました。教授は、小学校と中学校の先生方を対象に「今、算数・数学教育で求めるもの」というタイトルで、

- ・PISAの教育国際比較調査から数学的リテラシーを考え、今日本の算数・数学教育に求められていることについて
- ・実際の問題場面を使いながら、問題づくりの大切さ、算数・数学を使って伝え合うことの大切さについて
- ・新学習指導要領から、算数・数学の改善の基本計画、算数的活動・数学的活動の一層の充実と数学的な思考力・表現力を育てること

などをご教示いただきました。また、そのまとめとして授業の中で互いの知的コミュニケーションを図ること、自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合うことなど議論しながら学び合うことの大切さを強調されました。日本の子どもたちにとって大切なのは、算数・数学を学ぶことの楽しさを実感できる日々の授業づくりであることを強く感じたお話でした。

また、後半に小・中別の研修会を小学校は札幌市立円山小学校の村元先生、中学校は札幌市立札幌中学校の相原先生、札幌市立厚別中学校の石井先生を講師に、より実践的な研修を行いました。小学校部会では、「学びがいを感じる算数の授業」と題して、算数が好きな子を育てるにはどのような授業を行えばよいのかを「学びがい」を感じる授業づくりと関連させながら熱く説いていただきました。中学校部会では北数教中学校部会での特設授業づくりに向けての取組を、問題解決の授業実践例を紹介しながら教授していただきました。また、目指す授業をつくるための方向性を4項目に分け、各段階の手順を示しながら説明していただきました。

3. おわりに

今回の夏季研修会では、30席用意したいですが足りないくらい多くの先生方が参加してくれました。10月には岩見沢市立東小学校で公開研究会（プレ研）を計画しています。研究大会成功のため、今後も北数教の皆様のご指導を宜しくお願いいたします。

（文責 美唄市立東小学校 岩松 秀昭）

釧路算数数学教育研究会の活動

釧路支部

1. はじめに

平成11年に発足し、今年10年目となります「釧路算数数学教育研究会」は、通称「釧数教」で釧路の教育界では親しまれています。

今年の会員数は、新会員を含め、120名ですが、会員の全てまでが北数教会員とはなっておりません。それで、正式な北数教の釧路支部ではありませんが、北数教の研究動向をふまえて活動をしています。

2. 活動の紹介

小学校・中学校一緒になり、「研究（研究授業含む）・「広報」・「親睦」などの活動を年間を通して行っています。

(1) 平成19年度

①授業研究 平成19年2月26日(火)

○中学校第1学年 「立体の展開図」

②研修

○北数教「帯広大会」参加・発表

領域別研究発表

・「生徒がいきいきと学び自らを高めようとする授業のあり方」

○冬季研修会 平成20年2月2日(出)

「北数教帯広大会参加報告」

「研究発表」

「授業研究」

③広報

○広報誌「四面体」の発行

・事業報告、計画など

(2) 平成20年度

①研修

○小学校部会、中学校部会の組織と理論の構築

○北数教「札幌大会」への派遣参加

○冬季研修会を平成21年1月に開催予定

②授業研究

○小学校部会、中学校部会ともに実施予定

③広報

○広報誌「正四面体」の発行

○研究集録の発刊準備

3. おわりに

会員には、教員のみならず大学教官、教育局・市教委指導主事もおられ、力強い限りです。

毎年春に総会・懇親会を行っております。和やかな中にも、常に先を見据えた話し合いで、年度のスタートをしております。

(文責 釧路市立興津小学校 栗山由紀夫)

十勝・帯広地区の算数教育の充実へ向けて

十勝支部

1. はじめに

昨年度、北数教十勝・帯広大会を開催し、サークルの授業力向上と全道への実践の発信の機会を与えていただいたことは、十勝にとって大変貴重なことでした。この経験を大きなエネルギーに変えて、今年度からまた再出発の意識で取り組んでいきたいと思えます。

2. 今年度の取組

今年度は2点の重点課題を設定し、それに基づいて具体的な方策を進めていく計画でいます。具体的には、次のとおりです。

(1) 重点課題

①研究推進体制の見直し

さらなる研究の充実をめざし、北数教大会の成果を生かした小・中学校ごとの研究推進体制をつくることとしました。そのことで、校種ごとのより専門的な研究を促進させるとともに、小・中の授業研究交流もこれまで以上に活性化していきたいと考えています。

②会員拡大と研究の充実

サークルには、これからの教育の中核を担う若手教師の人材不足という慢性的な悩みがあります。サークルではこのことを重要課題と位置づけ、その方策としての研究の充実を車の両輪として長期的に進めていくこととしました。つまり、「質の高い良い授業を管内に発信することに全力を挙げ、そうした授業に参加者は関心を持ち、また感動し、そのことがサークルの和を広げていく。」という仮説です。

具体的な研究推進の内容としては、

◇年3回予定しているサークル授業研究会をすべて管内全学校に案内する。

◇サークル独自に、授業実践に即生かすことができる内容の「〇〇講座」「〇〇教室」を実施する。

◇研究理論と授業実践の発信のため、2～3年計画でCD-ROMによる授業書を作成し、管内に無料配付する。

◇2～3年以内に管内的な算数数学授業研究大会を開催する。

また、今年の9月26日には、秋山 仁先生をお招きしたワークショップ形式の講演会を開催することになりました。さらに、これまでも3度来勝していただいている正木孝昌先生との「授業バトル」もまた実現したいです。

3. おわりに

新学習指導要領で示された「習得・活用・探求」のサイクルは特に算数において重要な課題です。十勝の問題解決学習をベースに、今求められている力の育成についても実践を進めていくことが必要だと考えています。

(文責 芽室町立芽室西小学校 原見 寿史)

会員一人一人の指導力向上を目指して

網走支部

1. はじめに

網走管内算数数学教育研究会は現在50名の会員で活動しています。当管内は大変広く、会員も一円に散らばっているため、一堂に会することが容易ではありません。しかし、全道レポートを検討する夏の集いと冬の授業交流会の年2回、会員が集まって授業について熱く語っています。

2. 19年度の主な活動から

(1) 第62回北海道算数数学教育研究大会への参加

(2) 宿泊研修交流会「算数数学教育一夏の集い」

① 日 時：平成19年8月25・26日

② 場 所：常呂少年自然の家

③ 内 容

- 北海道算数数学教育研究大会レポートの交流
- 日常の授業実践レポートの交流
- オホーツクの幸を囲んでの懇親会

(3) 授業交流会・総会

① 日 時：平成20年1月25・26日

② 場 所：網走市立東小学校、第四中学校

※ 当日は吹雪のため中止

(4) 各研究会への後援、助言、参加協力

- ① 網走地方教育研究センター講座 講師派遣
- ② 美幌町学校教育振興協議会 講師派遣
- ③ 斜里町へき地複式教育研究大会 助言者派遣
- ④ 小中学校ステップアッププロジェクトへの協力

3. 20年度の活動

(1) 第63回北海道算数数学教育研究大会への参加

(2) 宿泊研修交流会「算数数学教育一夏の集い」

① 日 時：平成20年8月23・24日

② 場 所：常呂少年自然の家

③ 内 容：

- 北海道算数数学教育研究大会レポートの検討
- 日常の授業実践レポートの交流
- オホーツクの幸を囲んでの懇親会

(3) 授業交流会・総会

① 日 時：平成21年1月23・24日

② 講演予定

講師 北教大旭川校 教授 相馬 一彦 氏

4. おわりに

当管内では、毎年全道研究大会のレポート発表者を送り出し、全道の算数数学教育の状況について会員で交流を図っています。また、冬の授業交流会を実施しています。しかし、平成19年度は、あいにくの吹雪により中止にせざるを得ない状況でした。今年度はそのようなことがないことを願っています。

(文責 斜里町立朱円小学校 鈴木 寿弘)

月例会を主軸として

札幌支部

1. 学び合う支部

ここ1、2年、新入会員が増えている傾向にある。今年度も20名もの新入会員を迎え、会員数は200名を超える。研究の重点と観点を定め、日々の実践をもとに検証している。

①月例会の開催

各学年・ブロックを中心に、年間7回行われている。教材研究や子供の学びの姿について実践をもとに交流。各学年部報の充実が研究の深化、及び会員相互のパイプ役へとつながっている。

②夏・冬の学習会の開催

今夏は、講師をお招きし「算数教材の本質的な理解に導く問題解決授業」の講演会を行い学習した。会員外の方も多く参加された。冬には異校種連携についての学習会を開催する予定。

③支部大会の開催

本年10月24日(金)、第63回全道大会と兼ねて、札幌市立白楊小学校を会場に全学年の授業を公開し、検証する。

④会報「さんすうと子ども」の発行

各学年や会員の研究を発信し、交流の場になっている。今年度は5回発行の予定。

2. 研究の重点と3つの観点

今年度は、「子供が問い続ける創造的な授業の実現」を研究の重点として掲げた3年次研究のまとめの年にあたる。研究の観点は次の3点である。

①問いを明確にもつ

子供自身が、自分にとって「明らかにしたい、しなくてはならないこと」を意識できること

②既習を活用し、解決の過程を表現する

抱いた問いを解決するために、主体的に既習を活用したり、解決の状況を表現したりしていること

③かかわり合いから、学びが深まる

互いの状況をもとに他者とかかわり合うことで、問いが解決したり、発展したりしていくこと

3. 研究推進について

18年度は、3観点到った研究推進がなされた。初年度ということもあって、研究の具体化は多岐にわたり、多くの成果と課題を得ることができた。

19年度は、3観点のうち、特に焦点を当てて取り組む観点を学年ごとに定めて実践研究に当たり、よりシャープに授業の具体を問いただすことができた。

20年度は、3観点を共通の窓口とし、めざす授業の実現の集大成を図り、10月24日(金)に支部大会(兼全道大会)において、成果の公開を予定している。

(文責 札幌市立南小学校 渡辺 聡)

今年度の研究より

石狩支部

今年度も石教育算数部会の研究を紹介し、活動報告とする。

1. 算数部会の現状と研究の方向

平成18年度より2年間、研究主題を「自分の考えをもち、伝え合う子どもの育成をめざして～みんながわかる授業づくり～」と設定し、主に「進んで自分の考えをもつこと」「考えを表出し伝え合うこと」に焦点をあて、研究を進めてきた。その中で、既習事項を活かした学習過程の構築や振り返り時間の設定、小集団での伝え合う場面の設定など幅広い取り組みで、成果を上げることができた。しかし、表現力の向上やゆとりある練り合いの時間の確保など、新たな課題も生まれた。

そこで、今年度は、第21期（2006～2007年度）研究をさらに充実・発展させていくため、研究主題の継続研究と新たな発想での研究活動の構築を目標とする。

2. 研究計画（H20）

- 研究主題 上述
- 研究仮説

子どもたちは、問題に対し既習の知識や技能、生活経験などから多様なイメージをつくる。その多様なイメージは活動を通してしぼられ、より鮮明な自分の考えとなる。さらに、自分の考えを表現し、みんなと伝え合うことで互いに算数の世界を広めることができる。

〔具体的仮説1〕

知的探究心をくすぐる問題や教材に取り組むことにより、基礎的な知識・技能や生活経験が引き出され、自分の考えをもつことができる。

〔具体的仮説2〕

自分の考えを表現し、互いの考えを伝え合うことで、さらに考えを深め、広め、学習意欲が高まる。

研究内容

- (1) 自分の考えをもてる学習過程
 - ・基礎的、基本的内容の定着
 - ・問題の工夫、教材の工夫
 - ・多様な考えを引き出す活動
- (2) 自分の考えをわかりやすく表現することの重視
 - ・表現方法の工夫
 - ・表現力の育成
 - ・考えを伝え合う集団づくり
 - ・思考力を高める評価
- (3) 新学習指導要領に向けた教育課程の編成

研究方法

- ・研究領域は、全領域とする
- ・各市町村サークルによる授業実践
(低、中、高ブロック毎)
- ・研究集会開催（10月中旬）
(授業公開、提言レポート交流等)
- ・理論、実技研修
(文責 恵庭市立柏小学校 小島 雅人)

第63回 北海道算数数学研究大会

研究大会第一日目 10月23日（木曜日）

…札幌サンプラザ

○受付 13:00～13:30

◎講習会 13:30～15:15

演題 「思考力・表現力を高める算数科の学習指導」
～新教育課程で大切にしたいこと～

講師 吉川成夫氏

(文部科学省初等中等教育局 視学官)

研究大会第二日目 10月24日（金曜日）

…札幌市立白楊小学校

○受付 8:30～9:00

◎特設公開授業 9:00～9:45

学年	単元名	授業者
1	たしざん	矢澤 研
2	かけ算(1)	荒川 真希子
3	かけ算の筆算(1)	大山 健一
4	変わり方調べ	野島 幸絵
5	平行四辺形と三角形の面積	大山 健一
6	分数のかけ算とわり算(2)	黒澤 智美

◎開会式 10:00～10:15

◎授業分科会 10:15～12:20

◎昼食 12:20～13:20

◎領域・課題分科会 13:30～16:20

◎閉会式 16:20～16:30

平成20年度 北海道算数数学教育会役員・事務局一覧

事務局 札幌市立東札幌小学校 飯塚 泰久
 〒003-0004 札幌市白石区東札幌4条5丁目4-20
 TEL (011) 821-6333
 FAX (011) 821-6173

〈敬称略〉

副会長 山内 邦夫 札幌市立もみじ台小学校長
 部長 勝山 登 札幌市立上野幌東小学校長
 副部長 松村 憲治 札幌市立山鼻小学校長
 浜出 真樹 札幌市立発寒西小学校長
 横山 悟 岩内町立岩内東小学校長
 杏澤 昭一 旭川市立神楽小学校長
 岩松 秀昭 美唄市立東小学校長
 関川 明男 釧路市立鶴野小学校長
 監事 本間 道子 札幌市立琴似小学校長

研究部 村元 秀之 札幌市立円山小学校
 中村 義則 札幌市立北九条小学校
 森井 厚友 札幌市立北都小学校
 高田 洋史 札幌市立藻岩小学校
 村上 友宏 札幌市立手稲中央小学校
 末原 久史 札幌市立北光小学校
 高橋 健一 教育大学附属札幌小学校
 黒澤 智美 札幌市立白楊小学校

事務局長 飯塚 泰久 札幌市立東札幌小学校長
 事務局次長 小岩 芳政 札幌市立鴻城小学校教頭
 熊谷 敏夫 札幌市立石山小学校
 藤田千恵子 札幌市立発寒東小学校
 木村 聡 札幌市立大倉山小学校
 野村 幸明 札幌市立栄西小学校
 大桃 規之 札幌市立あやめ野小学校

庶務部 三浦 恵 札幌市立二条小学校
 大山 健一 札幌市立白楊小学校
 酒巻 智 札幌市立屯田北小学校

会計部 庄司ひさ子 札幌市立伏見小学校
 安友 才勝 札幌市立あいの里西小学校
 佐竹 浩樹 札幌市立あやめ野小学校

組織部 伊藤 淳一 札幌市立丘珠小学校
 中川 容一 札幌市立資生館小学校
 斎藤 弘樹 札幌市立新琴似北小学校

統括へ出向

統括事務局次長 高橋 智 札幌市立東橋小学校
 統括事務局員 荒井 隆弘 札幌市立栄東小学校
 佐々木 譲 札幌市立幌東小学校
 齋藤 俊博 札幌市立山の手小学校
 松川 浩之 札幌市立和光小学校

調査情報部 松村 倫宏 札幌市立北光小学校
 小松 雅征 札幌市立山鼻小学校
 星野 邦雄 札幌市立共栄小学校
 西澤 裕行 札幌市立宮の森小学校

会費納入のお願い

諸先生におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。日頃より、本会諸活動にご支援いただき、心より感謝申し上げます。

ご承知のとおり、本会は会員皆様方からの会費によって運営されており、この会報「さんすう」の印刷、発行も会費で賄われております。

例年多くの会員の方々に納入していただいております。しかし、残念ながら未納の方もおり、運営に支障を及ぼさないように会費の納入を呼びかけております。本年度は、より多くの会員の皆様へ会費を納入いただきますようお願い申し上げます。

◇平成20年度分 1,500円

◆昨年度未納の方は、昨年度分と合わせて3,000円を納入していただきます。

〒064-0918 札幌市中央区南18条西15丁目1-1
 札幌市立伏見小学校 庄司 ひさ子
 TEL (011) 551-2771

小学校部会のHPアドレスが変更になりました。

<http://blog.hokusuu.lomo.jp/>

